

6月号の1枚:シイタケのコマ打ちをするForest Nova

# 次の目標に向かって

#### 総会直前、14期の活動

1998年に活動を始め第12期目に 以下を採択しました。

1:次世代後継者育成

2:森林・林業の復権、富士流域サ プライチェーンモデル構築

1:次世代後継者育成は、「小原本 陣の森」に隣接する相模湖与瀬地区 にある禅寺・長福寺所有地を使わせ て頂く事が一昨年3月に決まり、5 月から入山することになりました。 この森は当会理事・宮村連理さんが 指揮を執り「知足の森」と名付けま した。

「知足」とは、足りていることを 知る、必要なものは最初からもって

いる、と説く「論語」から取ったよ うです。1年が経過しますが、ここは 中・高生が主力となって活動していま す。驚くべきは子供と思っていた中・ 高生がGPSを使って山林境界線の確 認作業をしている事です。また、フォ レストインフォと協働で三次元スキャ ナーを使って森林財産価値を調べる そうです。これに取り組む高校性が「面 白いですよ~」と言っているのです。 正式には「森林簿」と言うのがあり ますが、これは、航空写真から割り 出したもので地形等が不明確です。そ れを子供たちが難なく解決している から驚きです。

2:次いで、サプライチェーンは 富士流域(桂川相模川)源流山中湖 から始めて上流・大月、上野原にか けて様々な人々に会い流域を繋ぐ事 の意味・意義を訴えました。課題が 大きすぎて悪戦苦闘していましたが、 昨年の6月から一気に解決に向けて 動きました。

第14期は中流域の「藤野~相模湖 ~橋本~相模大橋」迄の相模台地の 森林・農地の有効利活用の途に取り 組んでいきます。林業の筈でしたが農 林業と言う括りになっています。とな ると、平塚・茅ケ崎・藤沢・鎌倉・ 横浜と繋がって行かざるを得ません。 これは私が考えたというより自然と そうなってきました。今後は折々、 経過と状況を報告します。

石村 黄仁(本会、代表理事)

今月の定例活動



2016.06

6月5日(第一日曜日):

小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上 知足の森/若者の森づくり

いずれも弁当持参。参加費:400円 6月19日(第三日曜日):

相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動

主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費:400円









#### [定例活動]小原本陣の森

5月1日(第一日曜日)

日中は汗ばむほどの陽気となり、夏の近いことを実感する季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

5月1日に行われた小原定例活動には、緑のダムからは川田さんと小林さんと角田さんの3名が参加、ForestNova☆からは新入生を含めた現役が3名とOBOGが5名参加しました。

午前中はOB、OGの方々に川田 さんたちから、今小原定例活動で 行っている活動の紹介があり、い つも通るルートとは別のルートを 使って活動地である小原の里山に 向かいました。

今回の山での主な作業は、拠点 周りの整備でした。拠点の周りは 雨などで倒れてしまった木の処理 や先端の折れてしまった欠頂木2本 の除伐作業を行いました。

いつも間伐や除伐作業を行う時は、人数が少ないこともあってあまり作業が早く行えないのですが、今回はOB、OGの方でプロの方が2人もおり尚且つ人数も多かったので、開始が午後からにも拘らず2本の除伐と玉伐りなどの処理も終えることが出来ました。

また、プロの技を間近で見ることが出来たので、非常に身のある活動が出来たのではないかと思っ

ています。しかし、新入生に対して は作業をしてもらうことしか出来 ず、小原の里山について詳しく説明 できなかったことが心残りです。次 回の活動では、改めて新入生向け に小原地域のことや活動地のこと を詳しく説明できるような時間を 設けたいと思います。

今回の活動から、山での活動においては何よりも人数が多く無ければやりたい作業を全て行うことが出来ないということを実感した。また、その中に知識を持ったひとがいるだけで作業効率が格段に上がるので、これからもこのような活動を行っていくためには横の繋がりと縦の繋がりを今まで以上に大切にしていかなければならないと強く思いました。

そのためにも、知り合いをたく さん作り仲間を増やすことと後輩 に今までのことをしっかりと伝えて いくことの二つを重視して活動して いきたいと思います。

中嶋 竜太 (Forest Nova)





### [定例活動]知足の森

5月1日 (第一日曜日)

今月の知足の森では新入生を迎えての1回目の活動でした。ついこの前まで小学生だった彼らがまずは始めたのはヘルメットのバンドを問整した。ヘルメットのバンドを調整した。ヘルメットのだとまだ違和感があるなか、まださなか、まだ違和感があるなか、軍手について登した。ノコギリの鞘をではまだまだがありました。ノコギリの鞘をいたのよりでで、右利きの生徒がたりに強していたり、鞘ごとベルト

の内側に入っていてそれでは抜きづ らいだろう、と細かいアドバイス をしていよいよ作業です。それまで とどたどしかった雰囲気もいざ斜 面の前に立ち、なぜ、どれを切っ ていくのか、と説明すると目の色 が変わっていき、作業が始まりま した。すると、新入生以外ではな いところに面白いことが起こりま した。どこで枝をきるのか、切っ たらどうするのか、どう並べてい くのか、切るときの立ち位置はど こか、これまで頼りなかった2年 生が自然とアドバイスする姿があ りました。今回は作業道からすぐ 手が届く範囲に一列に並んでの作 業でしたが、こちらは安全に作業

できるようにと、間間に上級生を 入れておいたことが、このような 形で奏功うするとは思いませんでし た。上級生の意識が変わる。今回 の活動の一番の成果だったかもし れません。初参加の生徒の感想は 「若者の森づくりから」で、ご紹 介します。

また活動後は住職さんも交え活動報告会を行い、知足の森でもデジタル技術を使った森林管理やその広報、GISでの取り組みを進めることを確認し、また地域との交流イベントなども行うことになりました

宮村 連理(本会、理事)

#### [定例活動]相模湖嵐山の森

5月15日 (第三日曜日)

サイハイラン、オカタツナミソウ が今を盛りと咲き、ウスバシロチ ョウが舞っている。

参加55名。今日は東京学芸大学教育学部環境教育リーダー養成講座の学生さんたちと引率の樋口、神村両先生を嵐山山頂までご案内する予定である。久々に森林インストラクターらしい働きができそうだ。参加の学生4名はすべて女子、しかも1年生。これにフォレストノバの釜谷君、新入生も合流するのでちょっと賑やか。

例のごとく望星の森の脇から小 尾根へと延びる道なき道を辿るこ

とにした。アオキにつかまりなが らの山登りは女子学生にとっては 少々厳しかったかもしれない(悪 しからず)。植物の生態的地位、 雑木林と人工林、森林の施業など についてもっともらしくお話しし ながらようやく山頂へ。記念写真 に「はい、チーズ」。展望はいまひ とつ。私の解説もいまひとつであ ったが、果たして学生さんたちは 満足してくれただろうか。下山の途 中、釜谷君がギンリョウソウを発 見。葉緑素を持たず、白い蝋細工の ような姿から「ユウレイタケ」の 別名を持つ。菌類から栄養をもら いながらの依存生活を営むいっぷ う変わった植物に若者たちは興味 深げだった。この間、お花畑班は バラに日陰をつくるオオシマザク ラの枝の剪定、森林整備班は倒木







処理と水源近くの草刈りを実施した模様である。

午後はシイタケとヒラタケのほだ木づくり。森林整備班、フォレストノバ、ノバOBの滝沢君、そして私もこれまた久方ぶりに実労働に加わる。シイタケはコナラ、ヒラタケはイヌザクラを使用。本来なら3月中に済ませておかなければならない作業なのだが、かなり時期がずれてしまった。まあ、なんとかなるだろう。

学芸大は宮村会員率いる地球環境部とともに間伐体験を行った。地球環境部は5本、学芸大は1本、これとは別にA地区で作業していた生命の森宣言東京も欠頂木1本の伐倒。

ほだ木づくりは思いのほか手間取ったため、終礼後も続行することに。この日できあがったほだ木は計17本。ただし、ヒラタケはともかくシイタケが顔を出すのは来年の秋になる。キノコを食べたい人はそれまで嵐山に通いつめなければならないが、ここに集うメンバーはキノコ以上に森が好き。森で汗を流すことが何よりの喜びなのである。

内野 郁夫 (本会、理事)

## [報告1] 渋谷deどーも2016

5月3日(火) ~5月5日(木) の 3日間、Forest Nova☆はNHK主 催の「渋谷deどーも」に参加して きました。渋谷のNHK放送センタ ーで行われる大規模なイベントで、 今年は全体で6万2千人を超える来場者がいたようです。強い日差しと強風のなか、私たちのブースにも3日間で合計500人程が来てくれました。

今年は「身近な"森"さがしゲーム」と称して、FSC認証マークや国産材マークなどの啓発をすることにしました。具体的には、まずこ

れらのマークがどのような意味を持つのかを説明し、次に机の上に置かれた日用製品の中からこのマーク(今回はFSC認証マークのみ)が付いたものを探すという流れで行いました。このブースの目的として、木には伐って良いものと悪いものがあると理解してもらうこ

# [連載] 相模湖・若者の森づくり から

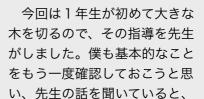
今月は知足の森、嵐山の森と 定例活動に初参加の中学生のコ メントを上級生のコメントと合 わせてご紹介します。

私が森にいって一番心に残っ たことは木を切ったことです。 小学校の図工で木の板を切った ことがあっても、そのまま生え ている木は初めてで、とても新 鮮だったからです。最初は切り 口にのこぎりの刃がひっかかる ことが多くてうまく切れなかっ たけど、先輩が「のこぎりの刃 の全体をつかう」「速くという よりリズミカルに切る」という 2つのコツを教えてくれたの で、だんだん慣れていくことが できました。木を切っていった あとに、活動した場所が明るく なっているのを見ると森を守る ことができたんだなという達成 感がありました。これからも欠 かさず活動に参加して森を守る



ことを続けていきたいです。 (1年女子)

人生で初めての現地に行って の作業でしたが、やっぱり大変 でした。けれど、時間がたつに つれてどんどん視界が明るくな り、とても達成感がある仕事で した。太い木、細い木いろいろ な木がありましたが、特に太い 木が大変で、協力したけれどか なり時間がかかり大変でした。 でも先輩から受け皿やノコギリ をまっすくにして切るなど様々 なことがわかりとても色々なこ とが知れた一日でした。勢いよ く切っても途中でいきなり刃が 動かなくなったり、切り口がわ かならなくなるなど大変なこと もありましたが、貴重な体験を させていただきありがとうござ いました。(1年男子)



新一年生と嵐山に行くのは初めてだった。作業は間伐を中心にスズメバチラップの四が、スズメがたった。のではいからいでではいった。ないではいかが、大きないではいかが、大きないではいかができたができたがではいる。ではいるでいるがでで、増えばりたい。(3年女子)をはいるがはいかが、第年女子のはいかがありた。(3年女子)をはいるがはいるがはいい。(3年女子)をはいるがはいるがはいい。(3年女子)をはいるがはいい。(3年女子)をはいるがはいるがあればりたい。(3年女子)をはいるがあるがあるがあるがあるがあるがある。(3年女子)をはいるがあるがある。(3年女子)をはいるできない。(3年女子)をはいるであるがある。

初めて森で作業し、そのやりがい、達成感、おもしろさを感じている1年生、感想のなかに技術的な向上心が芽生えはじめている2年生、いよいこうとする3年生と「カラー」が出なる3年生と「カラー」が出なるもっな気がします。そんな感しような見後、どのような感しるです。

宮村 連理(本会、理事)



とを掲げ、説明後のアンケートで理解度を測りました。身近な製品に付いているマークを取り上げることで、誰でもすぐに森への行動が起こせて、より親しみを感じてもらえるよう心掛けた企画でした。

"マークを探す"という簡単なゲームだった為、幅広い年齢の子でというでしたいちに体験してもらうこ面白くをました。よりがでまりがくする。 製品を見つけたりすると、供していると、で何度も来てくれると、出りを250枚ほど用意していたのが、途中で足りないたりないという。

の宣伝をしなかったりなどの対策をとりました。説明は子供たちの年齢に合わせて内容を微妙に調整するなど、メンバーそれぞれが工夫しました。特に、一緒に説明を聞いてもらった保護者の方に『勉強になった。』『今までこのマークの意味を知らなかった。』なかっただけたことが嬉しかったです。

ブース内は2,3人という少人数で回さなければいけませんでしたが、それぞれが臨機応変に対応できました。また来年も参加したいです。

西田 朋世 (Forest Nova)





# [報告2] 森林保全体験を通して

5月15日、私たちは環境リーダー 養成講座のプログラムを通して相模 湖で森林保全体験を経験させてい ただきました。

午前中のプログラムは「嵐山を登るう!」というものでした。ただ山を登るのではなく、登りながら木や草花、鳥、森林の様子など多くの山の知識を教えていただきました。印象に残ったのはスギとヒノキの見分け方についてです。スギの葉は細長く尖がっており、ヒノキの葉の裏には白くY字の線が見

られるということです。また、私たちが登ったのは整備された道ではなく、獣道のような今まで経験したことのない程の傾斜の道でした。アオキという木につかまりながら登り、その角度に思わず笑いながらもなんとか登頂することができました。個人では絶対経験出来ない貴重な体験でした。

午後のプログラムでは実際にノコギリで木を切り倒す作業を体験しました。木が倒れる時の迫力と、みんなで力を合わせて1本の木を倒したこと、にとても感動しました。木を倒す時、また間伐するのにも、ノコギリの扱いだけでなく、木と木の感覚や切り倒す方向

など考えなければならないことが 多くあり、人の何倍もの高さの木 を動かすことの大変さを知りまし た。改めて林業を意識できるきっ かけになったと思います。

最後に、今回この活動に参加して一番思ったことは、保全活動に参加された方々の年齢層の幅広さです。中学生から年配の方まで幅広い層の人々が一緒に活動することは、環境保全活動になくてはならないことだと思いました。

永井 友紀乃 (東京学芸大学A類環境教育撰修)







# [報告3] 望星の森に関する 感想と報告

5月15日含む2回の望星の森活動に関する感想等をここに記させていただきます。主な活動内容はスズメバチトラップの設置と回収、人口針葉樹林(植林)のスギ間伐と材の利用に向けた乾燥等でした。

 にも留めないような様々な小さな 命をこの目で確認することができ たということにもなり、身近な命 を発見できたということです。この ような機会に人間を取り巻く環境 には様々な命が蠢いていることを 再確認できたのならば中高生にと って道徳的な教育面での意義もあ るのだろうと感じました。

そしてスギの間伐に関しては「何が危険なのか」という点が最もに認知できる機会だと思いのはいるがいるだと思いの関す際には「「材の倒れる方向」「を配いてはありているととが、などでがいることが、などでがありませんが、ことに対したがいることがですることにははいってはありませんが。ことにはははないが、などにはははないではありませんが、ことにはははないではありまりである。ケガをすることにはいるという一の危機察知能がある。ケガをはいってはありませんが、ことにははいるではあります。

の向上に資することができる体験 活動であると感じました。また、 鋸で木を切り倒すことやその材を 運ぶことは大変重労働であること を体験することができたと思いま す。このことから勤労を重んじること とや、里山維持の大変さが身をも って感じることが出来たのではな いこと思います。

このような点より私はこの活動 には教育的メリットが多彩である 有意義な時間だと感じております。

輿水 健太(東海大学付属望星高等学校)

# [報告4] 上智大ASF積み木で参加し

5月29日に参加したイベント

の様子を写真でご紹介します。



ました





#### 参加にあたって:

初参加者は、9時15分までにJR 相模湖駅前集合してください。 服装、持ち物については、汚れ ても良い服装、着替え、滑らな い靴 成るべく皮製手袋、万一 の怪我に備えて保険証、飲料水、 主食、第3日曜は自分の食器 (お椀・お箸)

#### 危機管理・救急対応:

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

# NPO法人 緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

そして、沢山の参加で森は、良くなる。 (台風の日は勉強会開催。18年間、 一日も休まず"継続は力"。) 名称:特定非営利活動法人 緑のダム北相模

事務局: 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人: NPO緑のダム北相模 事務局 Tel&Fax 03-3411-1636

URL: http://www.midorinodam.jp

Facebook: http://www.facebook.com/658588827578641

E-mail: info●midorinodam.jp ●を@に変更して使用してください

協働団体:セブン-イレブン記念財団、相模原市(市民協働推進課)、

東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京

支援団体: WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、

神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、

マルモ出版、22世紀やま・もり再生ネット